

市内遺跡 11

—平成 28 年度 埋蔵文化財発掘調査報告書—

2018.1

茅野市教育委員会

市内遺跡 11

—平成 28 年度 埋蔵文化財発掘調査報告書—

2018.1

茅野市教育委員会

序 文

茅野市は長野県南東部に位置する風光明媚な高原都市です。東に八ヶ岳連峰、西に赤石山脈から続く山脚、北に霧ヶ峰山塊を擁し、霧ヶ峰の南麓からは遠く富士山を望むことができます。

当市には特別史跡尖石遺跡、史跡上之段遺跡や駒形遺跡をはじめとする多くの縄文時代の遺跡、更には国宝土偶「縄文のビーナス」、「仮面の女神」を保有するなど、「縄文の里」として全国にその名を知られています。それらの縄文遺跡にかくれがちであった弥生時代から江戸時代の遺跡も、市街地周辺における近年の発掘調査の蓄積によって各時代の生活の様相が明らかになりつつあります。

当市では市内各所で行われる各種開発事業と遺跡の保護・調整を図るために、国庫補助事業による試掘調査ならびに本調査等を進めてきました。その中で平成 28 年度に実施した 7 件の調査成果が本報告書にまとめられています。

報告する発掘調査は、いずれも遺跡の一部を対象に行われた小規模なものです。このような調査を地道に繰り返し行うことで、遺跡の広がりやその性格が解き明かされていくものと期待されます。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力を賜りました地権者ならびに事業関係者の皆さま、調査に従事された作業員の皆さまに心からお礼を申し上げます。

平成 30 年 1 月

茅野市教育委員会
教育長 山田利幸

例 言

- 1 本書は長野県茅野市が平成 29 年度に国宝重要文化財等保存整備費補助金を受け作成した、平成 28 年度の各種開発事業に伴う市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 本書に掲載した遺跡は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までに調査した遺跡である。
- 3 整理作業ならびに報告書作成は、平成 29 年 5 月 19 日から平成 30 年 11 月 30 日に実施した。
- 4 各遺跡の所在地は本文中に記した。
- 5 本調査に係わる出土品、諸記録は茅野市尖石縄文考古館で収蔵・保管している。
- 6 発掘調査から報告書作成までに、長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課、長野県考古学会、諏訪考古学研究会の諸氏からご指導、ご助言を頂いた。記して感謝する次第である。

凡 例

- 1 遺跡番号に枝番を付してあるものは、茅野市遺跡台帳の枝番であり、発掘届け受け付け順となっているが、本報告においては、実際の調査順としたため、順番が前後するものがある。
- 2 本書における挿図の縮尺は、挿図中に記している。

目 次

第 1 章 市内遺跡発掘調査等事業の概要	1
第 1 節 茅野市における埋蔵文化財保護の概要	1
第 2 節 平成 28 年度事業の概要	1
第 3 節 調査の体制	1
第 2 章 試掘調査	3
第 3 章 本調査	21
抄録	

第1章 市内遺跡発掘調査等事業の概要

第1節 茅野市における埋蔵文化財保護の概要

平成28年3月現在、茅野市における周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、遺跡とする）は348箇所である。遺跡内およびその隣接地で開発行為が計画された場合、事業者と市教育委員会との間で埋蔵文化財保護に関わる取り扱いを協議し、試掘調査（確認調査）の実施を基本に埋蔵文化財（遺構・遺物）の有無を確認することになっている。埋蔵文化財が確認された場合、工事の計画変更による遺跡の現状保存を事業者に求めているが、やむを得ず失われる場合には、事業者の協力を得て本調査による記録保存を実施している。

平成28年度に試掘調査を行った集合住宅建築工事においても、工事の設計変更が行えない状況が発生し、やむを得ず事業者が調査費用を負担していただき発掘調査を実施した事例が発生している。

近年の当市における発掘調査等は、ほ場整備・土地区画整理・幹線道路新設事業などの公共性の高い大規模な開発に伴うものから、宅地造成・集合住宅建築・個人住宅建築工事などの、民間・個人が事業者となる小規模な開発に伴う発掘調査へと移行している。今後もこのような小規模開発に伴う調査は増加の一途を辿ることが予想される。このような中で、平成27・28年度には、市内でも最後になるであろう大規模なほ場整備事業が計画され、試掘調査を実施し、本報告書にもその結果を報告している。試掘調査の結果、本発掘調査が必要となり、本年度実施したが、その成果については来年度報告予定である。

第2節 平成28年度事業の概要

平成28年度に受理した『土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書（93条第1項）』ならびに『土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知書（94条第1項）』は69件である。

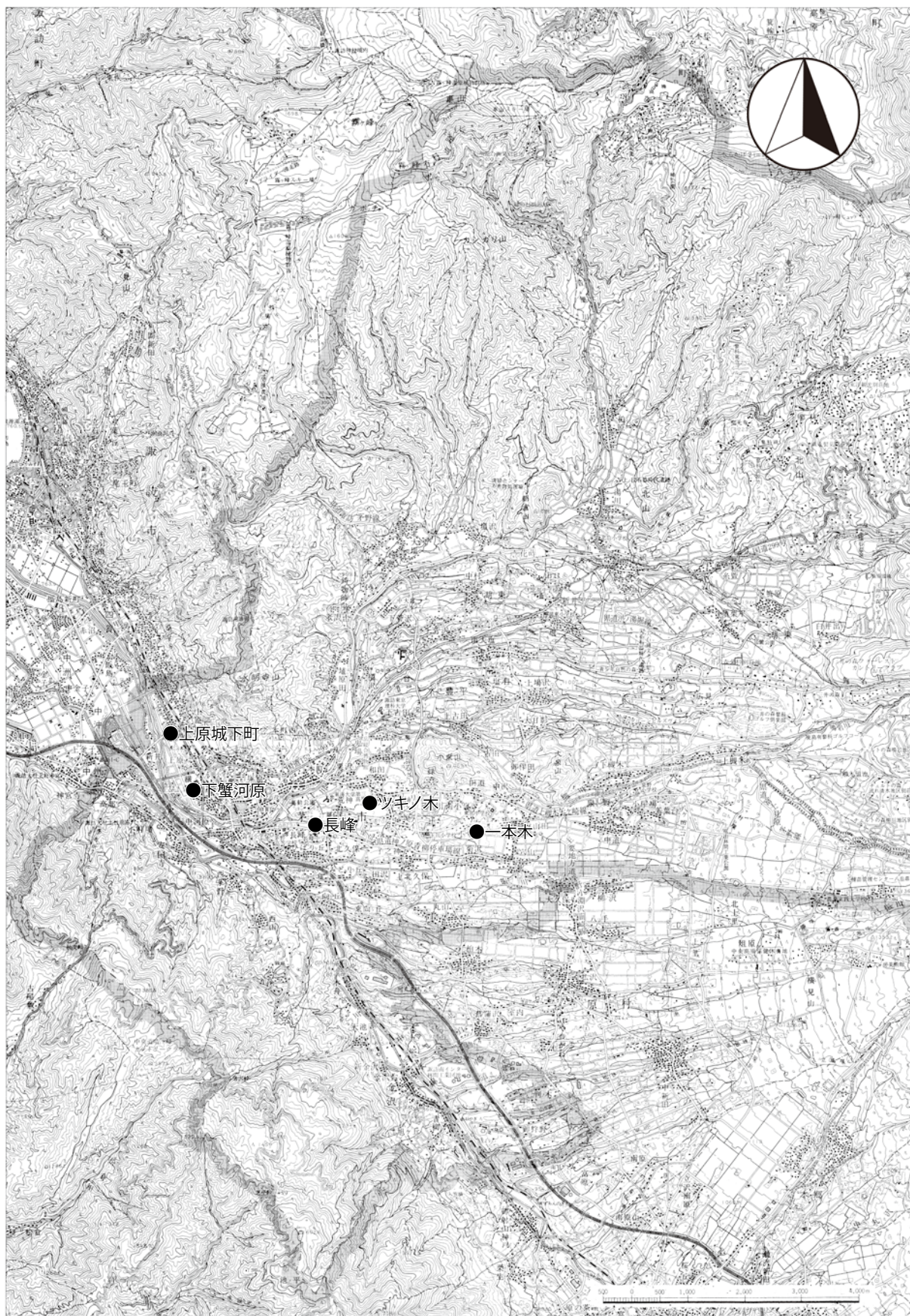
この中で平成27年度国宝重要文化財等保存整備費事業補助金の「市内遺跡発掘調査等事業」の対象事業は、試掘調査が6件、本調査が1件、補助対象事業費が2,459,405円であった。

本報告では、予算の執行を伴わない立会調査46件、慎重工事16件は割愛した。

第3節 調査の体制

発掘調査は茅野市教育委員会事務局 文化財課が実施した。組織は下記のとおりである。

- ① 調査主体者 教育長 牛山英彦（平成28年9月31日まで） 山田利幸（平成28年10月1日から）
- ② 事務局 生涯学習部長 木川亮一（平成29年3月31日まで） 平出信二（平成29年4月1日から）
- ③ 文化財課・尖石縄文考古館
守矢昌文（文化財課長・尖石縄文考古館長）
小池岳史（考古館係長） 正木美香（尖石史跡整備担当）
小林健治（文化財係長）
山科 哲 大月三千代 小林深志 鶴飼幸雄 塩澤恭輔（平成29年3月31日まで）
- ④ 調査担当 小林深志 鶴飼幸雄 塩澤恭輔（発掘調査・整理作業・報告書担当）
- ⑤ 発掘調査参加者
補助員 酒井みさを 大勝弘子 武居八千代 立岩貴江子
作業員 赤羽千雲 北澤俊弘 後藤信一 柳沢省一 山田善興



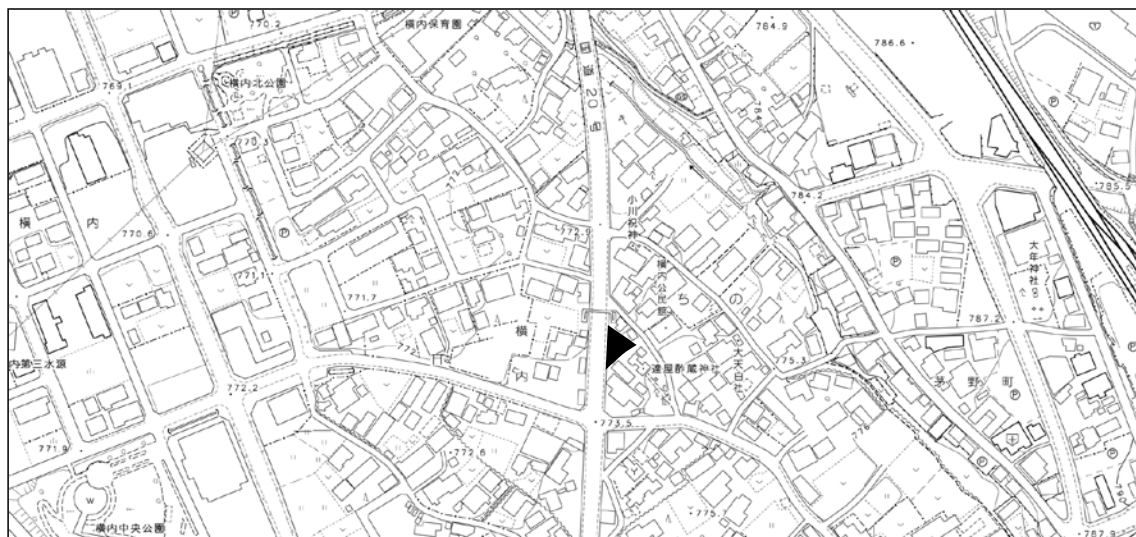
第1図 調査遺跡位置図 (1/100,000)

第2章 試掘調査

1 下蟹河原遺跡

遺跡の概要 下蟹河原遺跡はＪＲ茅野駅の西側に位置し、上川沖積段丘面の断層崖下に形成された微高地一帯に立地する。昭和６年に出土した古墳時代初頭の土器群で著名な遺跡であるが、立地からみて弥生時代から中世まで継続する集落遺跡であると推測される。

平成８年度以降、これまでに１４回の発掘届けが提出されているが、立会調査の結果、掘削面が遺構検出面より上でとどまっていたり、遺構が確認されなかったりと、大きな成果は得られていない。



第２図 下蟹河原遺跡調査地点図 (1/2,500)

遺跡番号 112-15

所在地 茅野市ちの字宮ノ前 3275-2

調査原因 個人住宅建築

調査期間 平成 28 年 10 月 13 日

調査面積 15.76㎡

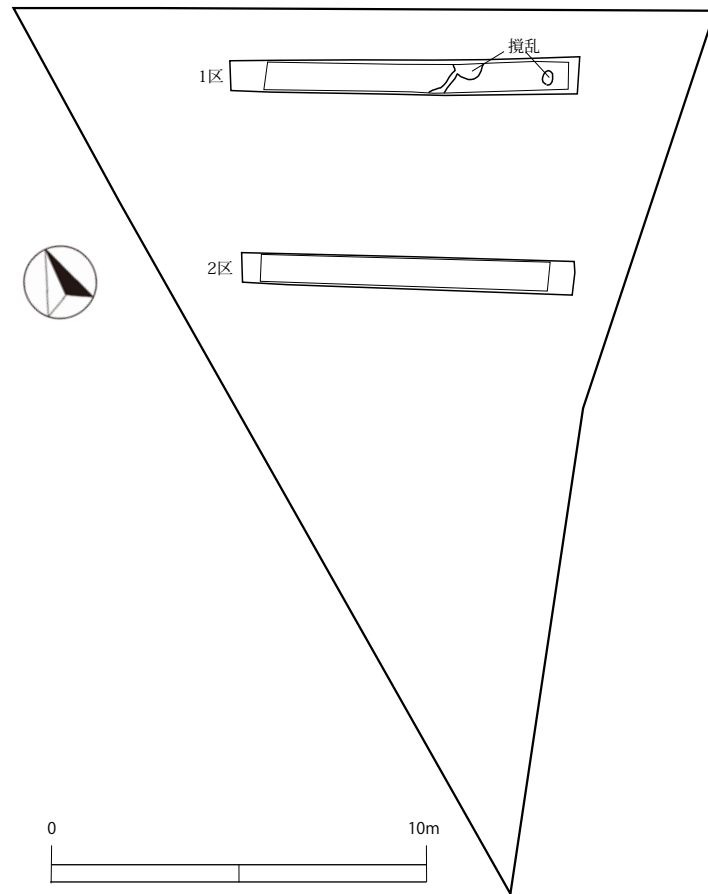
遺 構 なし

遺 物 平安土師器 5 点、須恵器 1 点、土師質土器 1 点、内耳土器 2 点、白磁 1 点

調査概要 遺跡範囲南端に位置する場所で個人住宅建替え工事が計画された。計画では建物下全てで表層改良が深さ約 1m にわたって行われる予定であったことと、達屋酢蔵神社のすぐ脇であることから事前に試掘調査を行うこととした。

調査は、表層改良が行われる建物部分に 2 本のトレンチを設定し、計画深度まで掘り下げた所、以前の建物基礎による攪乱の下からは砂層が検出された。また、トレンチの断面や平面からも遺構となる落込みは見られなかった。

遺物は古代から近世までの土器類が出土している。



第 3 図 下蟹遺跡調査位置図 (1/200)



図版 1 調査区 1 区



図版 2 調査区 2 区

2 長峰遺跡

遺跡番号 145-25

所在地 茅野市玉川字棚畑 4637-1,2

調査原因 集合住宅建築

調査期間 平成 28 年 8 月 9 日～ 13 日

調査面積 83.2㎡

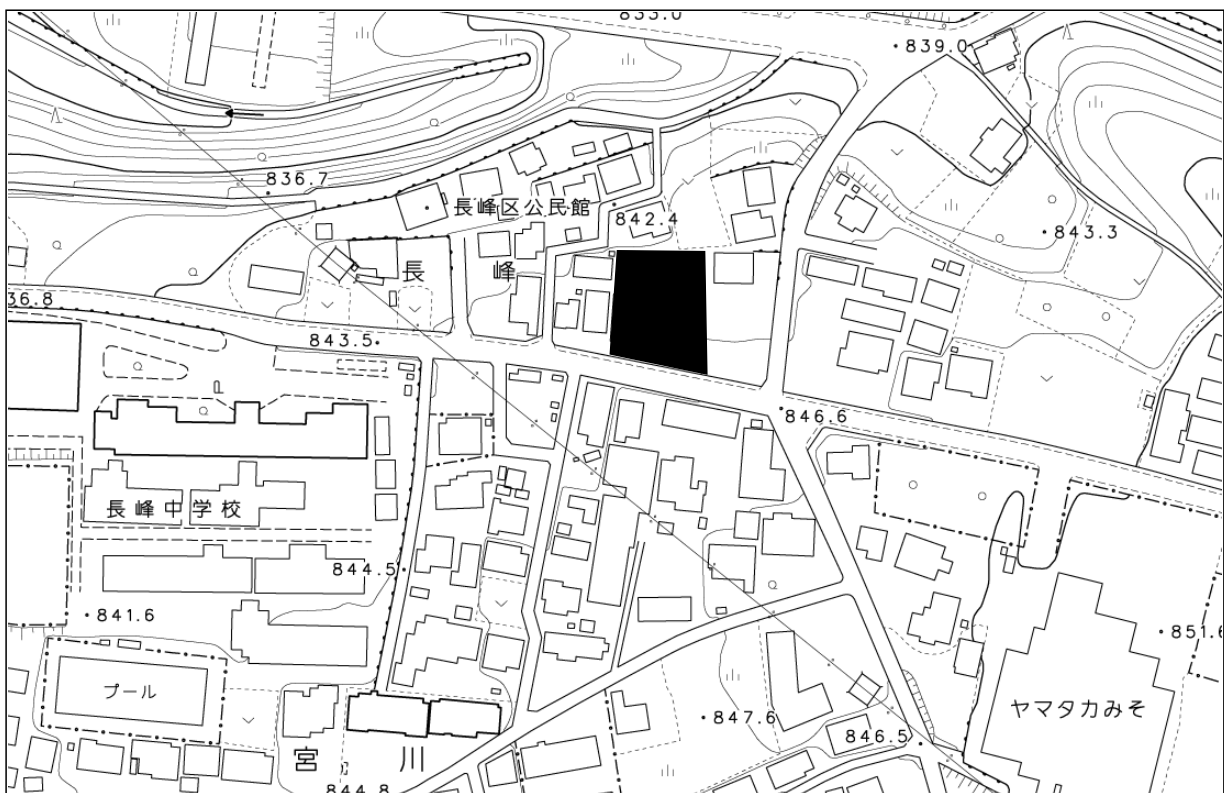
遺 構 縄文住居址 2、土坑 2、不明遺構 2

遺 物 縄文土器、黒曜石、石器 整理箱 1 箱

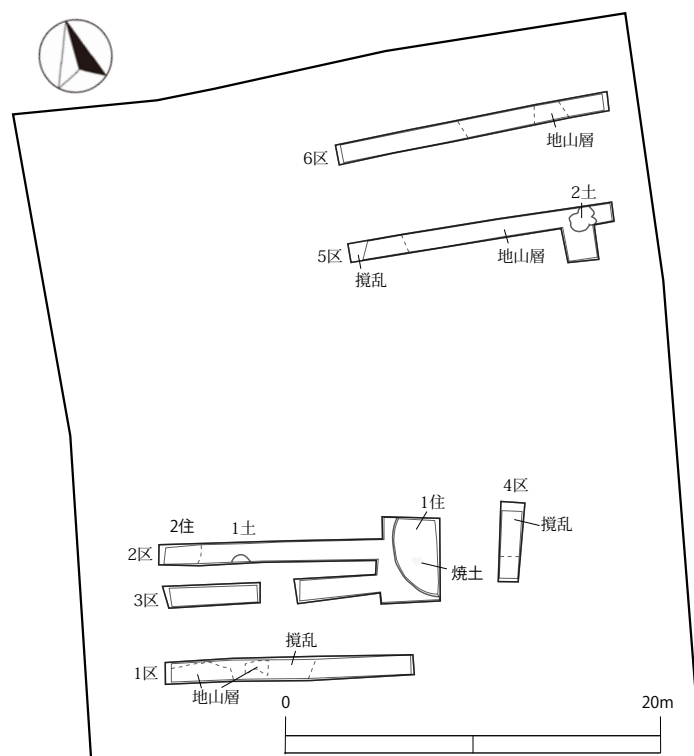
遺跡の概要 長峰遺跡は諏訪大社の御柱街道が通る台地の先端部に位置する。古くから知られた遺跡で、昭和24年には諏訪清陵高校地歴部により発掘が行われている。その後の各種開発に伴う調査により、規模の大きい縄文時代の遺跡であることが判明している。時期は前期から後期まで継続するが中心は中期である。また、旧石器時代平安時代の遺物も確認されている。

市街地に比較的近いため、これまでに個人住宅や集合住宅などの建築に伴い、発掘調査や工事立合を二十数回行っている。

調査の概要 遺跡範囲北端に集合住宅2棟の建築工事が計画された。工事はベタ基礎で掘削深度約75cm、幅約60cmで、内部は掘削深度5cmの土間状となる。ただし、建物下全てで表層改良が深さ約70cmにわたって行われる計画であった。予定地は以前は自動車修理工場が建っていたが取り壊し、更地になっていた。工事では表層改良により広く掘削が及ぶことや、周辺の調査歴からも遺跡の広がりや濃厚な場所であった。そのため、工事に先立ち試掘調査を行うこととした。試掘調査にあたっては事業主から建物下は基礎が弱くなる恐れがあるため、計画深度よりは掘らないでほしいとの注意があった。そのため建物外で地下の状況を把握しようと試しに掘ってみた所、現地表面から約30cmで土器片を多く含む黒色土層にあたった。精査し、遺構面であると判断し、記録のみに留め、掘り下げは中止した。この結果を元に、建物下に2本ずつのトレンチを設定し、慎重に掘り下げた結果、浅い深さで土器片が多数検出された。遺物包含層とみられ、東から西への傾斜に沿って広範囲に広がるとみられる。1棟部分では2区東端で落ち込みを確認した。プランや性格を把握するため落ち込みが確認された箇所を拡張した。その結果、円形もしくは楕円形の住居であると判明した。時期は中期前半頃と推定される。住居の他に1棟では落ち込みが複数箇所見られたが工事計画深度での検出のため、プランのみの把握に留まった。2棟では同じく遺物包含層の広がりが見られ、一括土器片を含むまとまった土坑の検出の他は計画深度までのため、明確な遺構は掴めなかった。



第4図 長峰遺跡調査地点図 (1/2,500)



第 5 図 長峰遺跡調査位置図 (1/400)

第 1 号住居址 (第 6 図、図版 3)

調査対象地の中央やや南、2・3 区の東側に位置している。地表下 56cm の漸移層上面に確認された住居址で、住居址の西側部分が捉えられている。2 区の東側に位置する 4 区ではプランが捉えられていないので、住居址の東壁部が 4 区に接する位置にあるとすれば、本址は径 5.5 m の円形の住居址となろう。

覆土は壁下 30cm まで掘り下げたものの、掘り下げは住宅基礎の堀削深度で止まっており、床面まで達していない。調査区東側の土層の断面観察では、表土下の黒色土が覆土の黒褐色土を覆っている。覆土中には焼土やローム土が部分的に認められ、土器・石器・礫なども出土している。なお、住居址内の中央やや南には東側の土層断面から続く攪乱穴が入っている。攪乱穴は掘り下げ面では焼土部分を切るように 140 × 90cm の範囲に広がっている。

出土した遺物は、土器 (第 7 図 1 ～ 19) ・石器 (図版 7-1 ～ 7) である。土器は勝坂式・平出三 A のほか、船元Ⅱ式とみられるもの (18) と東海系とみられるもの (19) がある。石器は打製石斧・横刃型石器・磨製石斧・緑色岩原石・黒曜石石鏃未製品・黒曜石などである。

藤内Ⅰ・Ⅱ式期の住居址と考えられる。

第 2 号住居址 (第 6 図、図版 4)

調査対象地の南西部、2 区の西隅に位置している。地表下 25 ～ 30cm の深さにあり、漸移層上面に住居址の覆土とみられる炭化物を含む黒褐色土の落ち込みを確認した。円形となる住居址の東側一部を確認したことになろう。内部の調査は行っていない。

時期は明らかでない。

第 1 号土坑 (第 6 図、図版 5)

調査対象地の南西部、2 区第 2 号住居址の東側 2 m の位置にある。地表下 30cm の漸移層上面に、ロームブロックと微量の炭化物を含む黒褐色土の落ち込みを確認した。径約 1 m の土坑になるとみられる。内部の調査は行っていない。

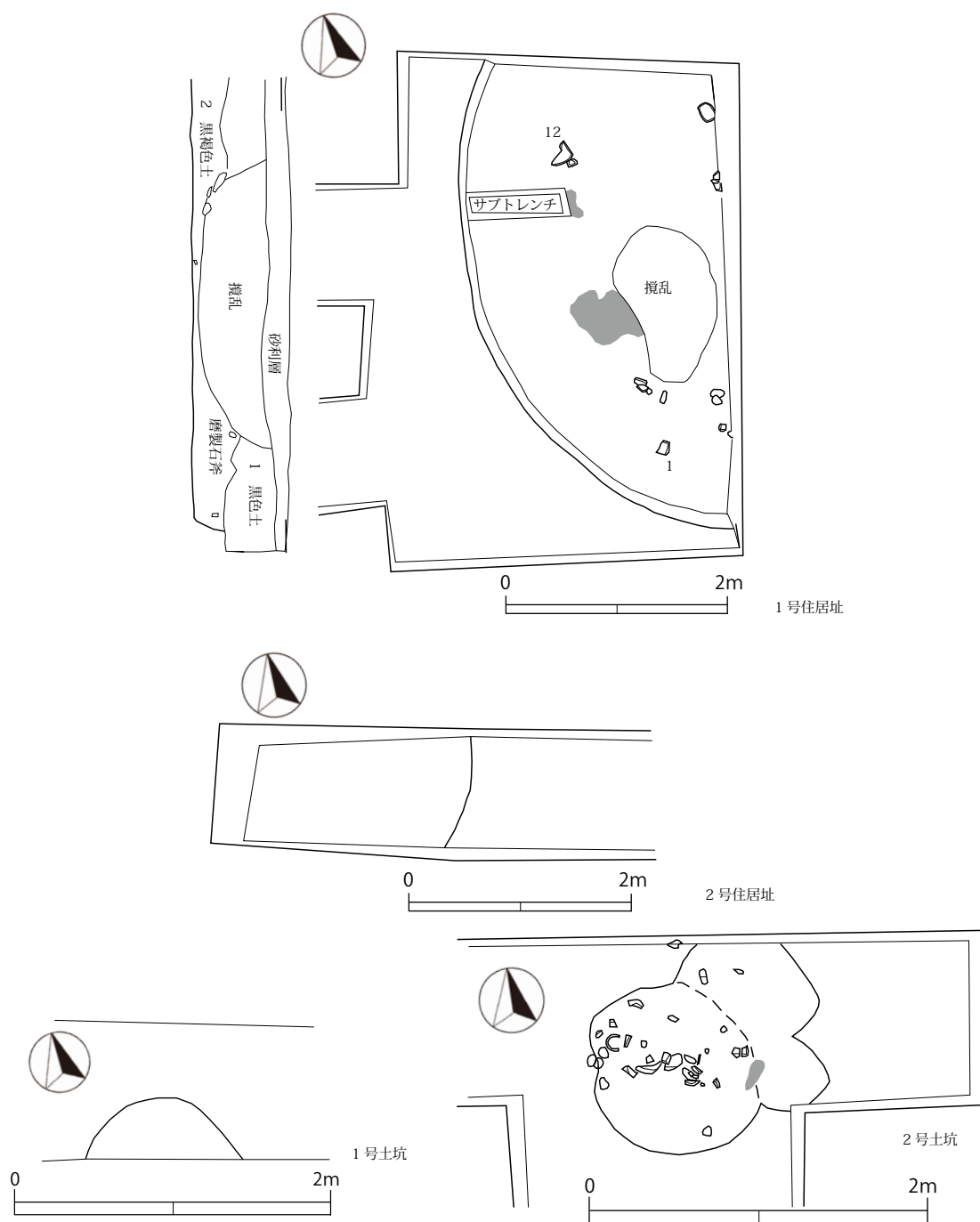
時期は明らかでない。

第2号土坑（第6図、図版6）

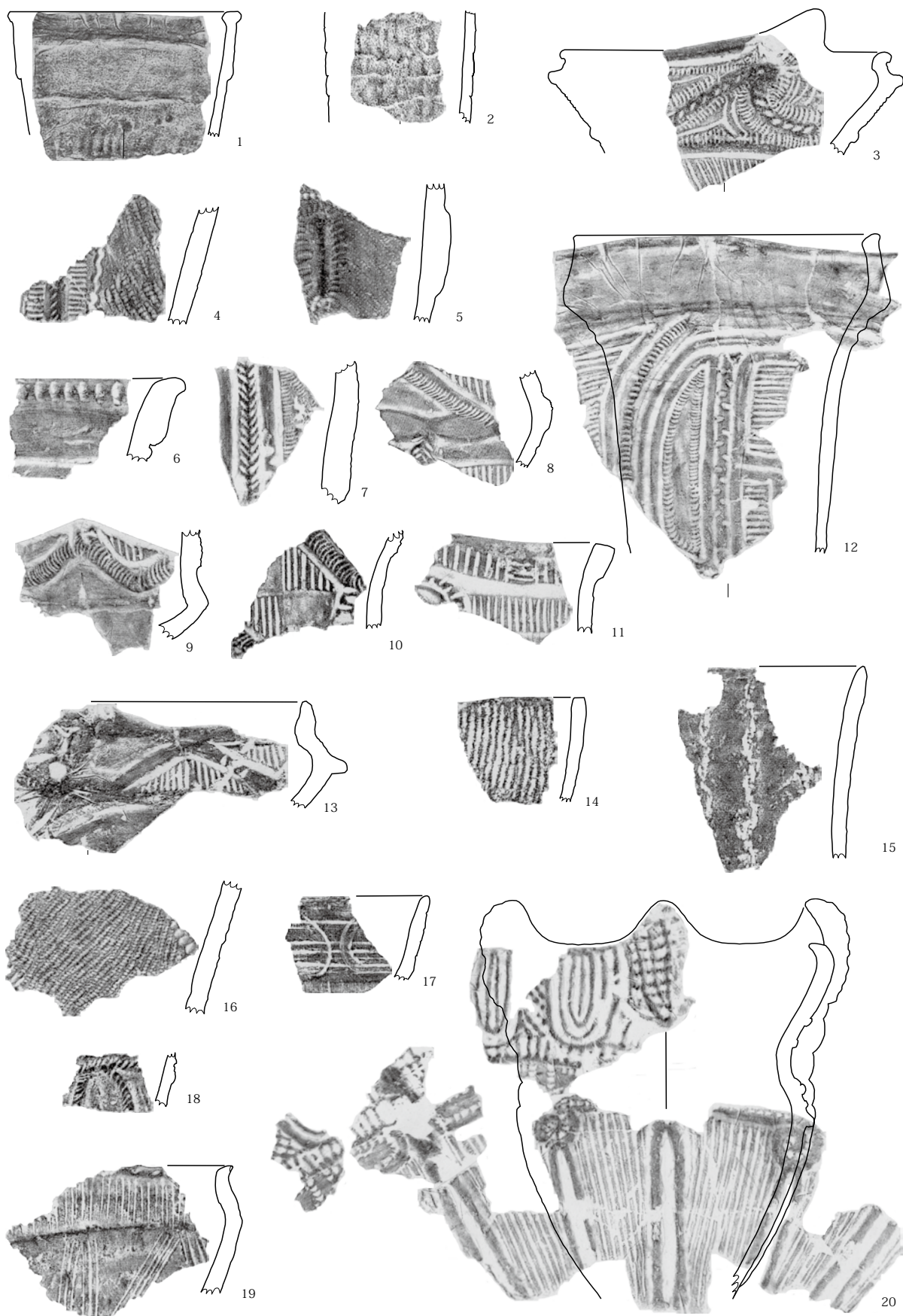
調査対象地の北東部、5区の東隅に位置している。地表下55cm前後の深さから破片となった一括土器や礫が集中して出土し始め、漸移層上面においてプランを確認した。

遺構は3基の土坑の重複とみられる。覆土は黒褐色土であるが、上面に遺物や焼土を伴う西側の土坑とそれ以外の2基ではローム粒・ローム塊・炭化物の含有量に異なりがある。3基の土坑は当初に遺物を検出した西側の径1mの土坑が新しいとみられる。内部の調査は行っていない。

上面で一括出土した土器（第7図20）は梨久保B式段階の深鉢形土器である。



第6図 長峰遺跡遺構配置図



第7図 長峰遺跡出土遺物（1.2.3.12.13.20 は 1/4、他は 1/3）



図版3 1号住居址



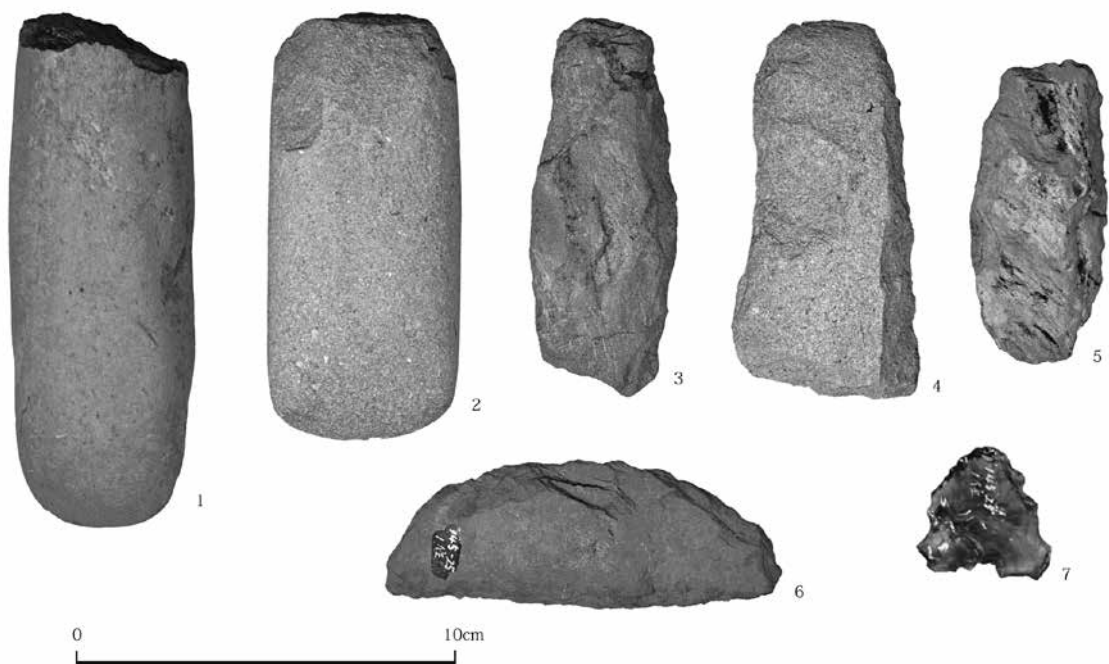
図版4 2号住居址



図版5 1号土坑



図版6 2号土坑



図版7 出土石器 (1/2、7は1/1)

3 一本木遺跡

遺跡の概要 一本木遺跡は八ヶ岳西麓の東西に延びる台地の南側斜面に立地する。縄文時代中期末葉の土器や石器などが採集されたことで遺跡登録されているが、発掘調査履歴に乏しく、急速な宅地化に伴う原地形の改変も進み、遺跡の実体や範囲は不明瞭である。直近の平成 26 年度の調査では落とし穴が 4 箇所見つかっている。



第 8 図 一本木遺跡調査地点図 (1/2,500)

遺跡番号 163-17

所在地 茅野市玉川字市道 8475-1 他

調査原因 宅地造成

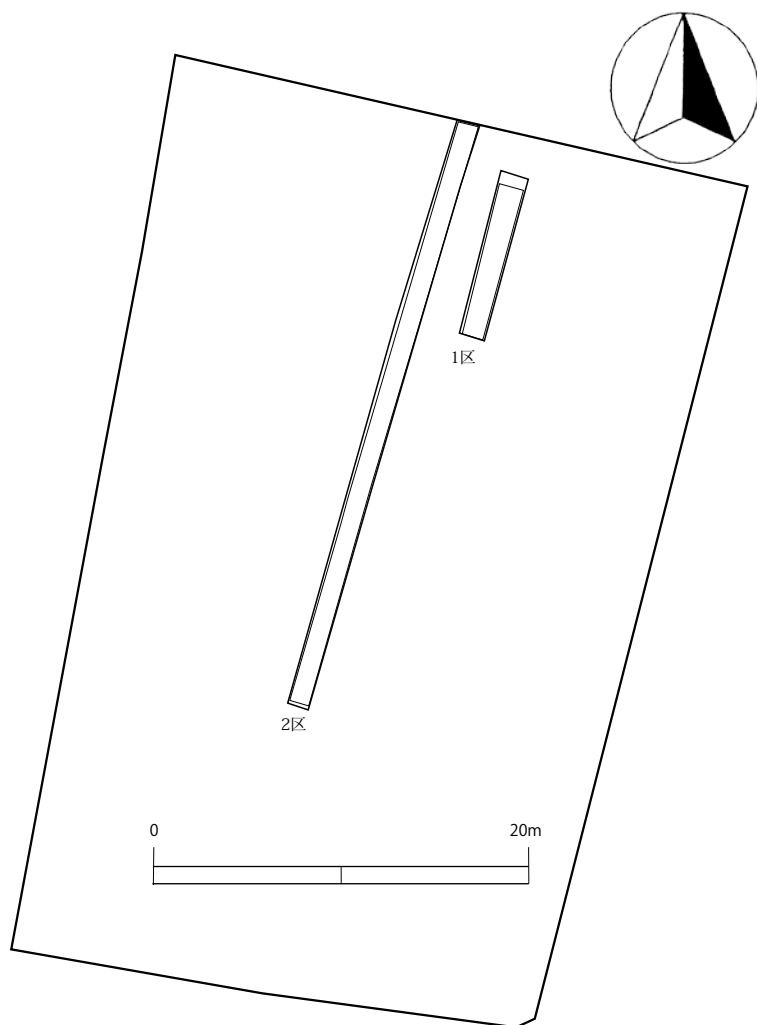
調査期間 平成 28 年 7 月 4 日

調査面積 42.72㎡

遺 構 なし

遺 物 なし

調査の概要 遺跡範囲西端にあたる位置に宅地造成工事が行われることとなった。計画では分譲地 4 区画と接続道路及び上下水道管を布設する。掘削が生じるのは擁壁部分と道路、上下水道の箇所、擁壁では幅約 1m、深さ 1.5m、総延長約 25m、道路部分で幅 4m、深さ 0.5～1.5m、長さ約 33m に渡って舗装道路とする。上下水道管は幅 1m で深さが道路面から約 1m となる。そのため、擁壁埋設箇所と下水道管理設箇所に 1.5m × 9 m、1.2 m × 32m にわたって試掘トレンチを設定した。表土の掘削にあたっては、0.11㎡バケットを付けた重機を用いた。掘削後平面及び断面の精査を行ったが、遺構遺物は検出されなかった。また、部分的に農業用アスファルトを含む耕作時の攪乱が見られるのみであった。地形は隣接市道から一段高くなっており、約 80cm の高低差がある。道路から計画地には約 2m 幅の進入路が設けられており、緩やかな傾斜となっている。道路部分の調査では市道寄りでは地山が削られていることを確認したが、地山が南に向かって非常に緩やかな傾斜となっていることが明らかとなった。基本序層は 1 層耕作土、2 層漸移層、3 層地山層でそれぞれ地表面から約 60cm、20cm、それ以降となっている。遺跡の端に位置する計画地であったため事前の試掘調査を行ったが、遺構や遺物は確認できずに、試掘調査を終了した。



第9図 一本木遺跡調査位置図 (1/400)



図版8 1区完掘状態



図版9 2区完掘状態

4 上原城下町遺跡

遺跡の概要 霧ヶ峰山塊の南縁を形成する永明寺山（1,156m）の南西一帯がかつては城下町が形成されていたことから広く遺跡として認識されている。永明寺山裾より南にある上川沖積地に向かって広がる平坦な段丘面上に存在し、JR中央線と国道20号線に沿って長く伸びる。永明寺山山腹には多くの古墳が確認されており、それに応じるように本遺跡からも多くの住居址がみついている。近年では広範囲にわたる大小様々な発掘調査の継続により、その成果が集積されつつある。中世に築城された上原城とその城下町が遺跡名の由来であるが、現在ではそれ以上に弥生～古代、そして中世と長期にわたる人の生活の痕が次々と見ついている。また、そうした調査の中には数は少ないが縄文土器や石器、黒曜石といった遺物も出土している。

調査地点図にある211については、第3章 本調査に記した。



第10図 上原城下町遺跡調査地点図（1/2,500）

遺跡番号 224-204

所在地 茅野市ちの字大町 845-5

調査原因 集合住宅建築

調査期間 平成28年10月6日～14日

調査面積 52.7㎡

遺構 弥生～中世住居址3、土坑9、焼土址2

遺物 弥生土器、古墳土師器、平安土師器・須恵器、須恵質土器、内耳土器、鉄釉陶器、瀬戸美濃、黒曜石、打製石斧 整理箱1箱

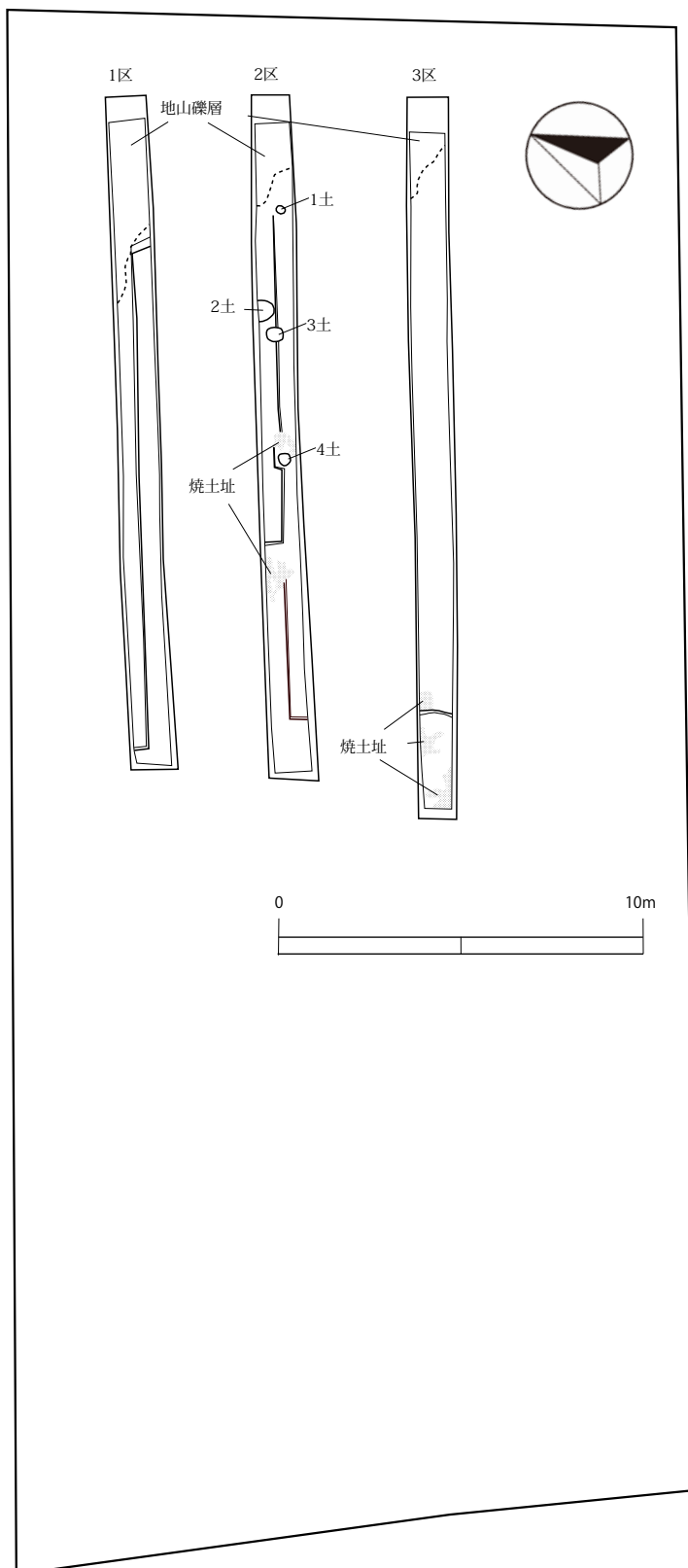
調査の概要 遺跡範囲中央北に位置する場所に集合住宅が建築されることとなった。計画では建物下部分で現況地面から深さ約 80cm に亘って表層改良が行われるため、周辺での調査歴に乏しい一方で葛井神社にも近く、農作地として地形の変形が及んでいないと思われたため、工事に先立ち試掘調査を行うこととした。

試掘調査にあたっては建物配置箇所にも 3本のトレンチを設定した。重機を用いて耕作土を剥がしていくと、現況面から約 60cm で砂混じりの黒色土が広い範囲で検出された。その高さから土器も出土することから、ここから手作業で下げることにした。

検出された遺構は住居址 3 軒以上、土坑 9 箇所、焼土址 2 箇所であるが、遺構が重なり合っているため捉えきれない。改良が及ぶ深さまでに掘り下げを留め、施工業者と本調査について協議した所、表層改良を中止し、柱状改良に設計変更することを検討することとなった。そこで、本調査への切り替えは行わず、トレンチ内の遺構プランの記録保存に留め調査を終了した。なお、ベタ基礎として現況から深さ約 45cm の基礎工事には立会を行う予定であったが、その後、地盤の都合上表層改良以外の工法が困難であるとの施工業者からの連絡により、本調査に切り替えることとなった。

なお、本調査及び報告書刊行は、平成 29 年 3 月までに完了している。

茅野市教育委員会 2017.3 『上原城下町遺跡―平成 28 年度集合住宅建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』



第 11 図 調査位置図 (1/200)



図版 10 調査区全景



図版 11 1区完掘状態



図版 12 2区完掘状態



図版 13 住居址検出状態



図版 14 遺物出土状態



図版 15 作業風景

5 上原城下町遺跡

遺跡番号 224-208

所在地 茅野市ちの字大町 841-1

調査原因 集合住宅建築

調査期間 平成 28 年 11 月 21 日

調査面積 28.65m²

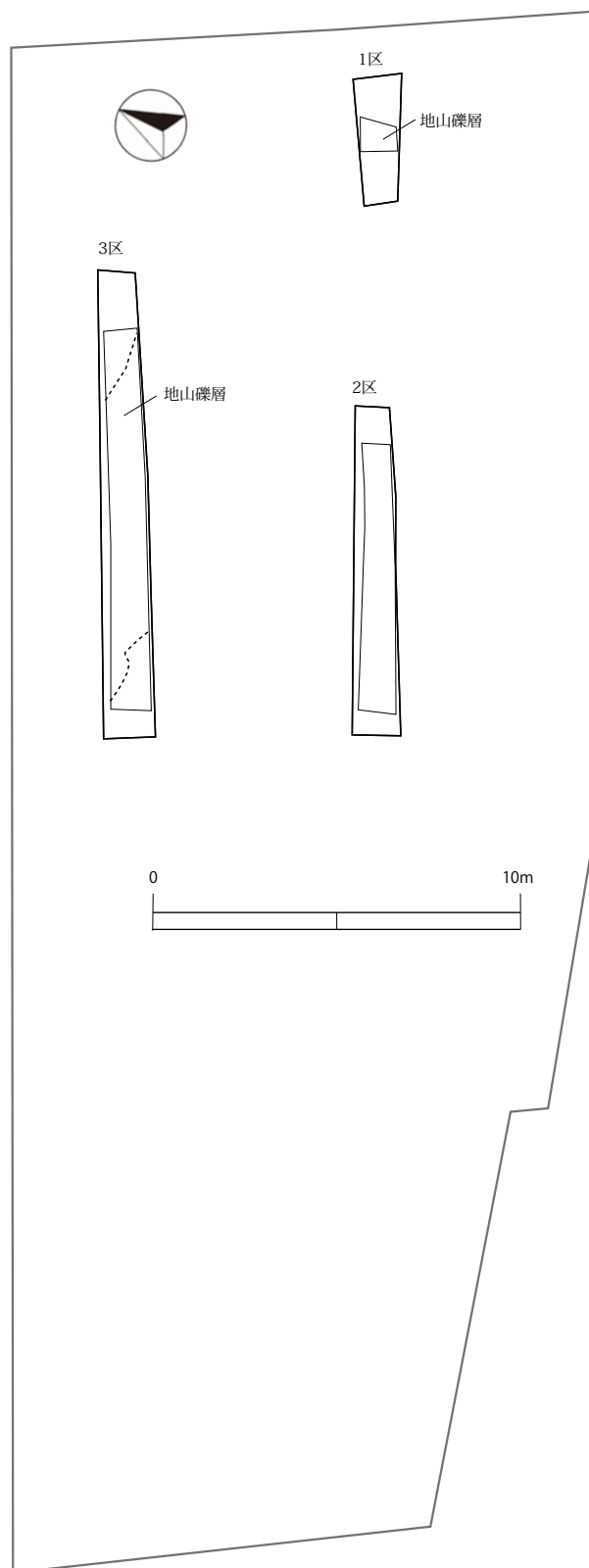
遺構 なし

遺物 縄文土器 3 点、古墳土師器 2 点、中世内
耳土器 2 点、カワラケ 4 点、黒曜石 2 点、
時期不明土器 5 点

調査の概要 遺跡範囲中央北西に位置する場所に集合住宅が建築されることとなった。計画では隣接道路路面の高さまで盛土造成し、建物下に深さ約 1.8m の表層改良を行う予定であり、現況地面からの掘削は約 1.2m の計算であった。計画地東約 30m の場所でも同施工主による集合住宅建築工事に先立ち試掘調査を行い、住居址 4 軒以上、土坑 9 箇所、焼土址 2 箇所が検出されている。そのため、当該計画地にも遺構が残っているものと考え、工事に先立ち試掘確認調査を行うこととした。

調査は建物配置箇所を対象に端からトレンチ状に重機で表土を剥がしていった。しかし、東角を掘ってみた所、耕作土層下より大きな礫混じり砂質土層が確認され、現況から約 1.2m の深さでも同じ層でさらに下に続く。そのため、急遽トレンチではなく四隅に試掘穴を南角でも掘って確認してみた所、今度は耕作土下から黄褐色粘質土層地山が検出された。そのため、地層の繋がりを確認するため、東角に向かってトレンチ状に伸ばすこととした。その結果、楕円状の攪乱が検出され、その下で大きな礫混じりの層と黄褐色地山の境となることが確認できた。さらにその西側にもう 1 本トレンチを入れた所、トレンチ内を斜めに走るように東端と同じ礫混じり砂質土層が検出され、東西に流路のような大きく流れた跡が伸びることが判明した。攪乱部分からはよく焼けた焼土や小さな土器片が出土したが、これは畑作時の攪乱と思われる。

遺物が若干出土したものの、攪乱以外の遺構は見られないことから、工事が遺跡に及ぼす影響は無いと判断し調査を終了とした。



第 12 図 調査位置図 (1/200)



図版 16 調査前全景



図版 17 1区完掘状態



図版 18 2区完掘状態



図版 19 3区完掘状態



図版 20 調査風景



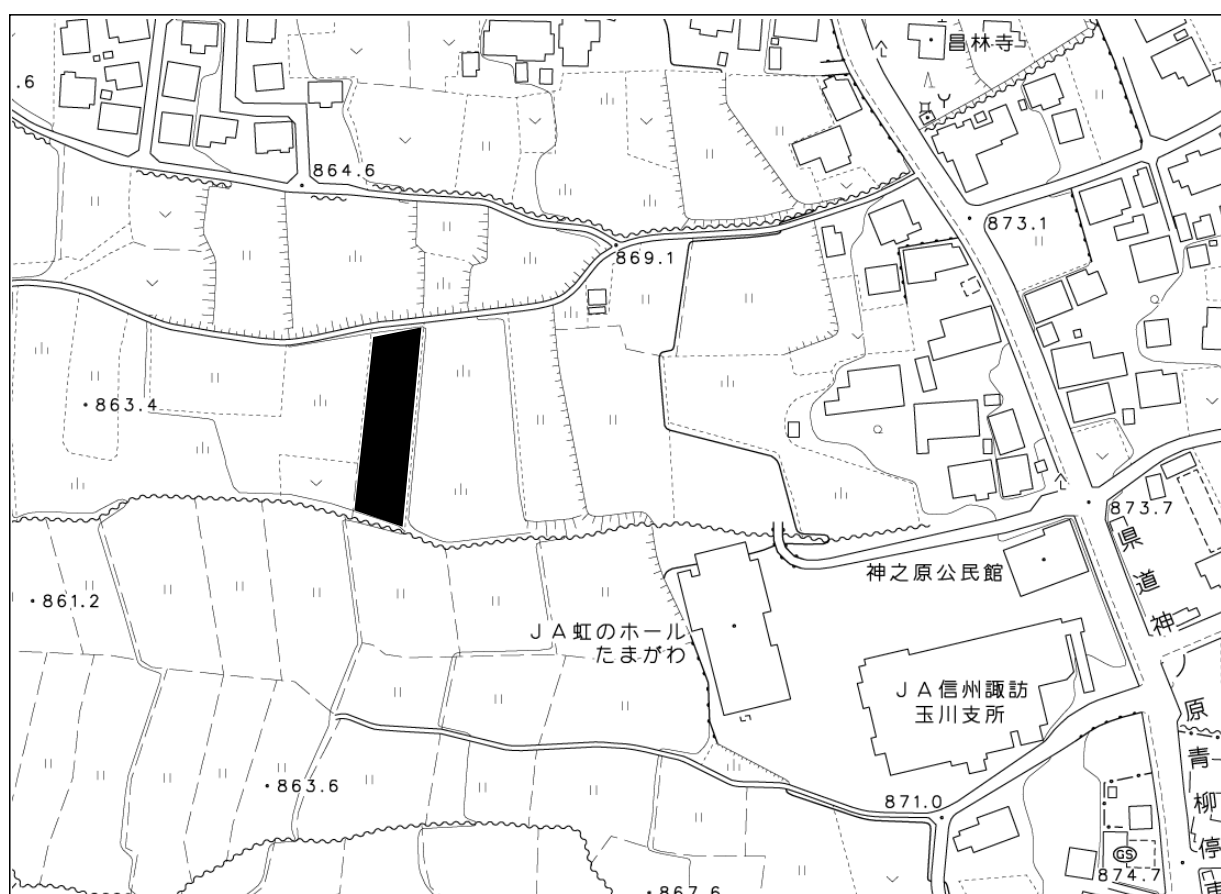
図版 21 調査区全景

6 ツキノ木遺跡

遺跡の概要 本遺跡は玉川神ノ原に位置する。市教委による遺跡地図作成のための調査を行った際に、平安から中世にかけての遺物が採取され、埋蔵文化財包蔵地として認められた。遺跡一帯は水田や畑地といった耕作地として使用されており、これまで開発が行われることもなかった。そのため、遺跡の構造や性格は不明であった。

この遺跡範囲全体にかかる範囲で県営ほ場整備事業が計画された。ツキノ木遺跡は遺跡として登録をされているものの、これまで調査歴等はなく実態が掴めていない遺跡であったことから、平成 27 年度に遺跡範囲内の休耕地を、地権者の承諾を得たうえで、試掘調査を行うこととした。

当初の遺跡範囲は、細い尾根筋南の谷間にあり、その中の休耕地 2 筆でトレンチによる試掘調査を行った。その調査では遺構はみられず、遺物は西側試掘箇所の水田層付近から出土した中世龍泉窯系鎗蓮弁文青磁碗 1 点のみで、時期は 13 世紀から 14 世紀前半とみられる。試掘調査の結果からは、谷部分が遺跡である可能性は低く、むしろ北の一段高い台地が遺跡とみられ、遺物は北側の尾根からの流出と思われた。そこで、遺跡の範囲を北側の尾根に拡大変更し、休耕地を地権者の承諾を得た上で、再度試掘調査を行うこととした。



第 13 図 ツキノ木遺跡調査地点図 (1/2,500)

遺跡番号 299-3

所在地 茅野市玉川 2780

調査原因 県営ほ場整備

調査期間 平成 28 年 6 月 15 日～ 17 日

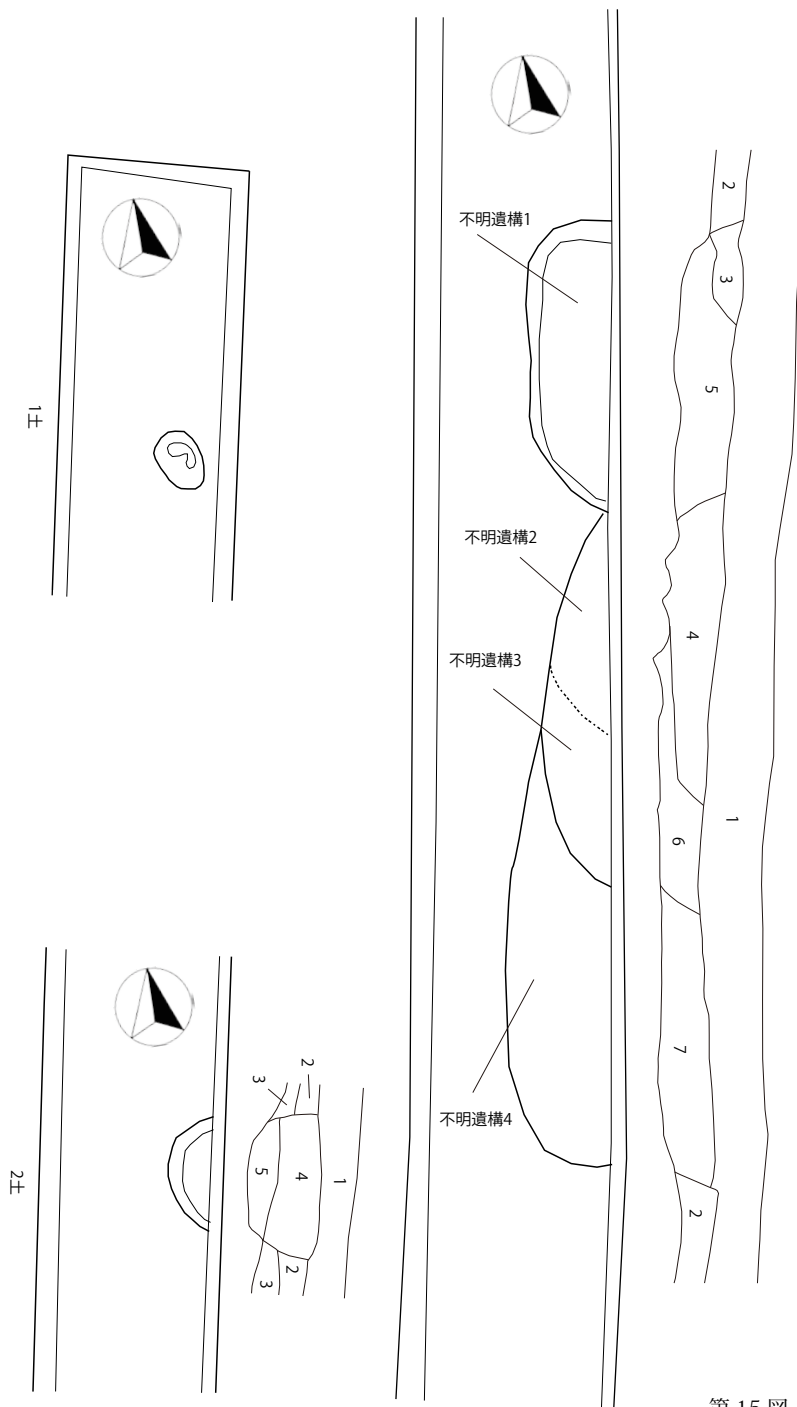
調査面積 161.24㎡

遺 構 土坑 2、不明遺構 4

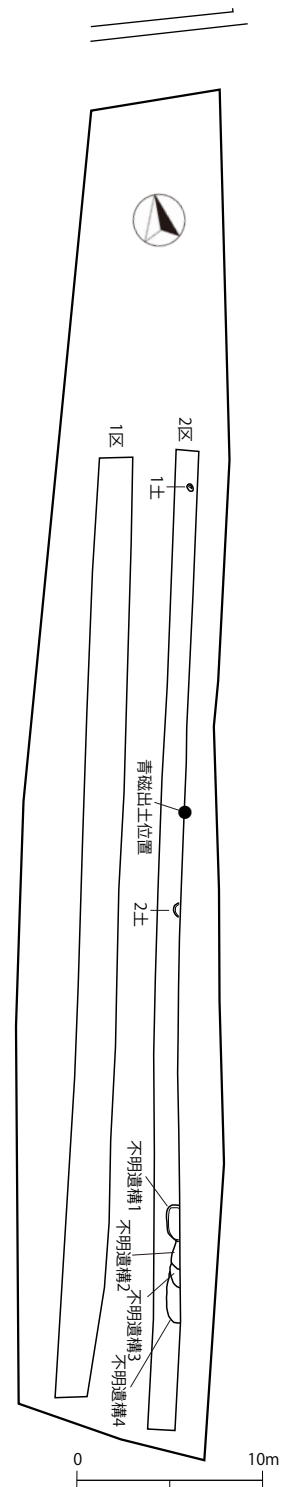
遺 物 青磁 1

調査の概要 平成 28 年度は、細い尾根筋の台地上の休耕地一筆にトレンチを設定し調査を行った。調査の結果、南へ緩やかに傾斜する中、土坑 2 基、不明遺構 4 箇所を検出し、遺物として青磁 1 点が地表面から 30cm の耕作土層内から出土した。遺構については共伴した遺物がなく、時期は定かではないが、これまでに出土している青磁 2 点がいずれも中世と思われることから、中世以降と考えられる。黒色耕作土の下にはローム漸移層とローム層が続いている。今回の調査から遺構が確認できたため、この成果をもとに、ほ場整備担当部署との協議を行い、平成 29 年度に本発掘調査を行なった。

この調査結果については、平成 30 年度に報告書を刊行する予定である。



第 15 図 ツキノ木遺跡遺構図 (1/50)



第 14 図 ツキノ木遺跡調査位置図 (1/400)



図版 22 調査前全景 (南から)



図版 23 調査前全景 (北から)



図版 24 1区完掘 (南から)



図版 25 2区完掘 (南から)



図版 26 2区完掘 (北から)



図版 27 2号土坑 (西から)



図版 28 1号土坑検出状態



図版 29 1号土坑完掘(西から)



図版 30 不明遺構全体(南西から)



図版 31 不明遺構(部分)



図版 32 調査区全景(南から)



図版 33 作業風景

第3章 本調査

1 上原城下町遺跡

遺跡番号 224-211 調査地点図は第10図参照

所在地 茅野市ちの769-13,14,15

調査原因 個人住宅

調査期間 平成28年12月8日～26日

調査面積 60㎡

遺構 弥生～平安住居址11、土坑32、不明遺構2

遺物 縄文土器、弥生土器、古墳平安土師器、古墳平安須恵器、黒色土器、中世土師質土器、中世近世陶器、鉄製品、黒曜石、石器 整理箱2箱

調査概要 遺跡範囲西側に位置する場所に個人住宅が建築されることとなった。計画では建物下で現況地面から深さ約1.08mの表層改良を行い、基礎は建物下に基礎梁として幅60cm、深さ約35cmで溝状に掘削する予定であった。計画地は宅地造成地であり、造成工事に伴う上下水管布設工事に伴う試掘調査の結果、狭いトレンチにも関わらず、古墳～平安住居址6軒、土坑7箇所が検出された。また西に隣接する個人住宅建築の際にも発掘調査を行い、古墳時代以降の9軒の住居址が検出されている。そのため、計画地地下にも遺構が密集して残っていると考えられた。そこで、工事に先立ち記録保存のための発掘調査を行うこととした。

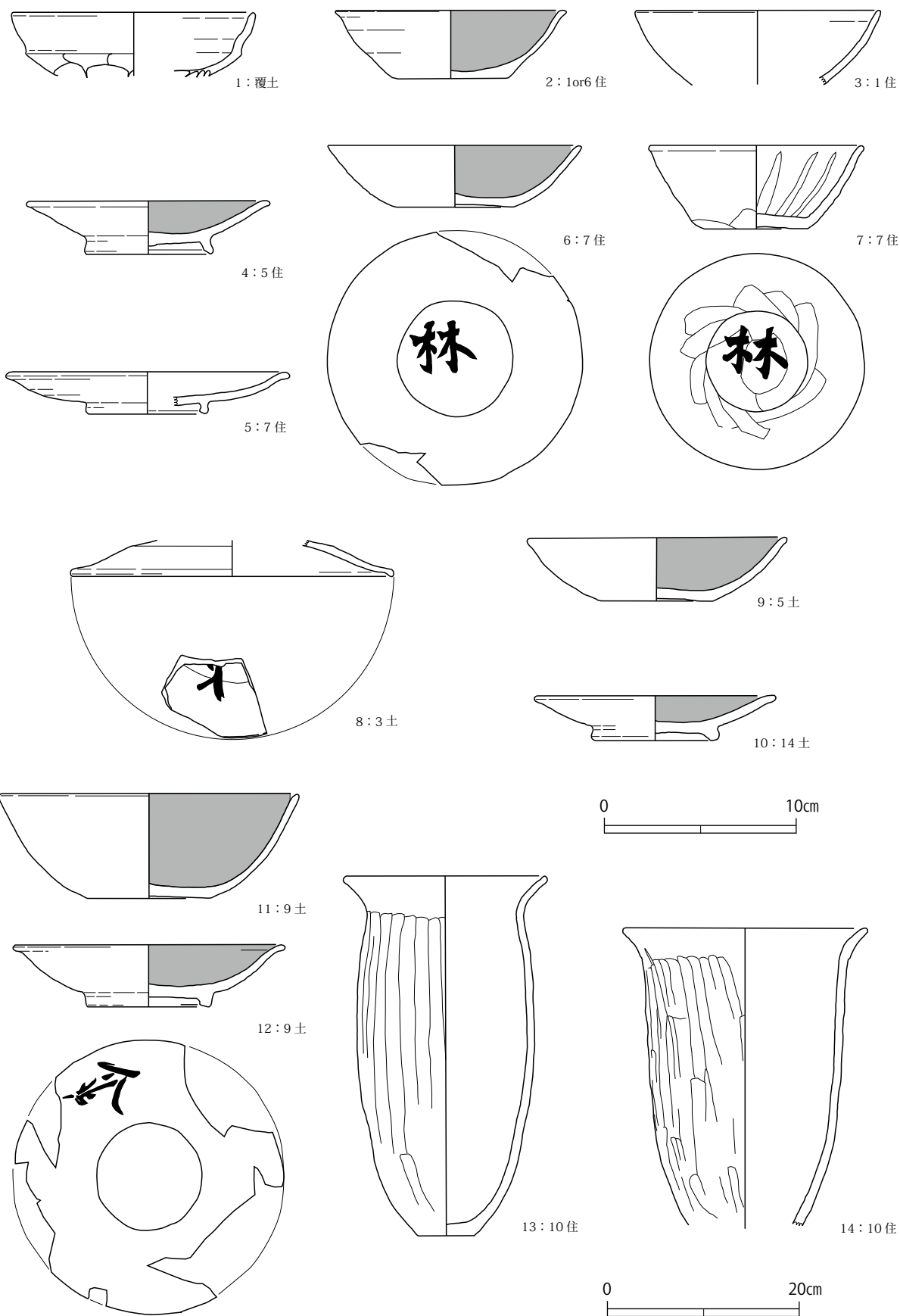
バックホウを用いて表土を取り除いていったところ、土器や焼土が検出されたため、それ以下の深さは人力で慎重に掘り下げていった。遺構覆土と考えられたが、遺構が重なり合っていたため、プランが明確にならなかった。部分的には床上の硬く締まった箇所も確認されたが、黄褐色土の地山まで掘りさげてようやくプランを捉えることができた。遺構は弥生～平安住居址11、土坑32、不明遺構2が確認された。住居址については重なりが激しく、調査区南西側では緩やかな自然的傾斜のため、住居址の可能性もあるが捉えきれなかった。遺構の多くは遺物が古墳から平安のものが多いことから当該期と考えられるが、これも遺構の重なり等により明確にはなっていない。記録を取りながら計画深度まで下げた所で調査は終了とした。調査区南西側では基礎下に遺構が保存されている。遺構と遺物 検出した遺構については、第16図に示した。図中の赤線は、掘り下げ途中で確認されたものを示したものである。また、出土遺物についても同様に赤で記した。第18図に示した出土遺物の番号の後に記した遺構は、調査者が調査終了時点で遺構の所属を判断したものである。

遺物1は、掘り下げ中での出土で、出土位置が明らかでない。古墳時代後半の所産であるが、所属する遺構は検出されていない。遺物2と3は1・6号住居址としたが、焼土中での出土で、焼土の分布を考えると4号住居址としたほうがよいのかもしれない。遺物4も同じ遺構の可能性もある。遺物5から7は7号住居址出土でよいであろう。6と7は坏の形態は異なるが底部に同じ「林」の墨書が記されている。遺物8は酸化焰焼成の須恵器で、墨書がある。3号土坑としたが、焼土が混じっており、5号住居址のカマドとなるのかもしれない。遺物9は、5号土坑出土としてあるが、遺構検出時に不明遺構1としたものと一緒となり、一つの住居址となるのかもしれない。遺物10は、14号土坑出土となっているが、確認面での出土であり、別の住居址の可能性もあるが、遺構検出時にこれを覆うような遺構は認識されていない。遺物11・12は、9号土坑となっているが、上層での出土であり、遺構検出時に北西にあるとした赤線で示した住居址に属する可能性もある。10号住居址とした遺物13・14もこれと同じ住居址となるのかもしれない。

このように狭い範囲の中で、多くの遺構が検出され、工事による掘削面までという制約のある中での調査であったため、遺構の数や出土遺物の帰属遺構について不明なものも多いのは残念であった。



第 16 図 上原城下町遺跡検出遺構 (1/80)



第 17 図 上原城下町遺跡出土遺物 (1/3、13・14 は 1/6)



図版 34 遺構検出状態 (西から)



図版 35 遺構検出状態 (東から)



図版 36 1・6号住居址遺物2・3出土状態(南から)



図版 37 1・6号住居址遺物2・3出土状態(南部分)



図版 38 遺物4・8出土状態



図版 39 14号土坑遺物10出土状態



図版 40 10号住居址遺物13・14出土状態



図版 41 作業風景



図版 42 遺跡全景 (西から)



図版 43 遺跡全景 (東から)

報告書抄録

ふりがな	しないいせきじゅういち					
書 名	市内遺跡11					
副 書 名	平成28年度 埋蔵文化財発掘調査報告書					
巻 次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編 著 者 名	小林深志・塩澤恭輔・鶴飼幸雄					
編 集 機 関	茅野市教育委員会					
所 在 地	〒391－8501 長野県茅野市塚原二丁目6番地1号 TEL0266－72－2101					
発行年月日	西暦2018年1月29日					
ふりがな 遺 跡 名	所 在 地	市町村コード	調 査 期 間	調査面積 (㎡)	調 査 原 因	発見遺構
		遺跡番号				発見遺物
しもがにがわら 下蟹河原	茅野市ちの字 宮ノ前3275-2	20214	平成29年10月13日	15.76	個人住宅	なし
		112				平安土師器5点、須恵器1点、土師質土器1点、内耳土器2点、白磁1点
ながみね 長峰	茅野市玉川 字棚畑4637-1,2	20214	平成28年8月9日～13日	83.2	集合住宅	縄文住居址2、土坑2
		145				縄文土器、黒曜石、石器 整理箱1箱
いっぽんぎ 一本木	茅野市玉川 字市道8475-1他	20214	平成28年7月4日	42.72	宅地造成	なし
		163				なし
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字大町845-5	20214	平成28年10月6日～14日	52.70	集合住宅	平安～中世住居址3、土坑9、焼土址2
		224				弥生土器、古墳土師器、平安土師器・須恵器、須恵質土器、鉄釉陶器、瀬戸美濃、黒曜石 整理箱1箱
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字大町841-1	20214	平成28年11月21日	28.65	集合住宅	なし
		224				縄文土器3、古墳土師器2、中世内耳土器2、カワラケ4、黒曜石2、時期不明土器5
つきのき ツキノ木	茅野市玉川 2780番地	20214	平成28年6月15日～17日	161	ほ場整備	土坑2、不明遺構4
		299				青磁1
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの769-13,14,151	20214	平成28年12月8日～26日	60	個人住宅	弥生～平安住居址11、土坑32、不明遺構2
		224				縄文土器、弥生土器、古墳・平安土師器・須恵器、黒色土器、灰釉陶器中世土師質土器、中近世陶器、鉄製品、黒曜石、石器 整理箱2箱

市内遺跡 11

—平成 28 年度 埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成 30 年 1 月 29 日 印刷

平成 30 年 1 月 29 日 発行

編集 茅野市教育委員会

発行 長野県茅野市塚原二丁目 6 番 1 号 (0266) 72-2101(代)

印刷 永明社印刷所

長野県茅野市塚原 2 丁目 12 番 30 号
